

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ABA発達支援教室 みらいKids& Sports (児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 ～ 2024年 12月 27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日 ～ 2024年 12月 27日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・DCD（発達性協調運動障がい）に対応した、1対1の個別プログラムでのトレーニング支援を提供している。	・個人の課題に合わせた活動内容を取り組んでいる。 ・体の複数の箇所を同時に動かす協調運動を重視して行っている。	・運動機材の定期点検を行い、子どもが安心して利用できるように環境を整える。 ・場所の都合上、児童発達支援管理責任者の先生との連携が取りにくいので、定期的に子どもの様子や変化を見てもらうようにする。
2	・複数の運動機材を用意している。	・子ども成長や様子にあわせ、保護者の要望や主訴を聞き、必要に応じて机上のプログラムも取り組んでいる。	・毎回スモールステップで取り組み、苦手意識無く達成感を感じられるよう引き続き支援していく。 ・昨年12月よりトレッキングが導入された為、データとして記録を残すようにする。
3	・子ども1人に対して広い空間が提供出来ている。	・療育の空間、遊びの空間に分けられるので、切り替えを促しやすい環境になっている。 ・子ども、支援者、記録者のみの空間なので、子どもにとって集中しやすい空間になっている。	・広い空間を使ったボールや縄、飛び石等を積極的に使うようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋が寒い。	・窓が少なく、日差しが入りづらい環境になっている。	・エアコン2台を上手く活用し、子どもの登所前から暖かくしておく。 ・床が固く冷たいので、敷物を敷くことで寒さ対策を行っていく。
2	・構造化が出来ていない部分がある。	・運動機材については、毎日使うこともあり部屋の端に置いてあるが、そこに入りたがる子どももいる。	・カバーをかける、仕切りやマットを置く等、子どもから物が見えないようにする。 ・収納棚を増やす。
3	・強化子が少ない。	・ロッカーが小さいので、箱物の玩具を保管しづらい。	・みらいやPLUSにあるものと定期的に入れ替えることで子どもが飽きないように工夫する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ABA発達支援教室　みらいKids & Sports (児童発達支援)
------	-------------------------------------

公表日　2025年　2月　3日

利用児童数　2024年11月5日　現在24人

回収数　14

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	0	0	0		使用しない器具はできるだけ収納し、活動スペースを少しでも広くできるように、工夫を重ねていきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	0	0	0		今後も、様々な専門分野の職員を、指定基準以上配置していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	1	0	0		今後必要に応じて、可能な範囲で対応していきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	1	0	1	・寒い ・いつも清潔にしてもらっています。	換気の後の温度管理に気を付けて、心地よく過ごせる環境にしていきます。
適切な 支援 の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	1	0	0	・声かけや支援方法など子供に合わせてもらっています。	今後も保護者様との連携をはかり、個々に応じた支援をしていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	0	0	0		年間計画、月間計画に基づいたプログラムを提供します。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0		今後もアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された個別支援計画を作成します。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	1	0	0	・保護者の希望も入れて、より具体的な支援内容を作成してもらっています。	今後も具体的でわかりやすい内容を心がけていきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	0	0	0		スタッフ間で個別支援計画を共有し、個別支援計画に沿った支援をしています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1	0	0	・毎回アプローチを変えて対応してもらってます。	同じ目標でも様々なアプローチができるように、職員間で意見を出し合い、多角的に支援できるようにしていきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	3	6	2		今後、機会があれば検討していきます。
保護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	0	0		今後も利用開始時に、丁寧な説明を心がけていきます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	0	0	1	・毎回、個別にいてねいに説明してもらえます。	今後も、分かりやすく丁寧な説明を心がけていきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	2	0	0		保護者向けのプログラムを今後も実施していきます。手紙やSNSで随時お伝えしていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14	0	0	0	・帰りの際にいつもお話をして下さいます。 ・職員によって子どもの状況、支援についての理解の深さが大きく違い、不安を感じています。	保護者様とのコミュニケーションを密に取り、職員全員で、情報共有できるようにしていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1	0	0	・面談の際には、わかりやすくアドバイスをしています。	今後も定期的な面談と、必要に応じた子育てサポートを実施していきたいと思います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	0	0	0		今後も利用者様に寄り添った支援をしていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	3	5		今後、機会があれば検討していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	0	1	0		みらいカフェを併設し、相談しやすい環境を整えています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	0	0	1		連絡帳やSNSなど、個々に合った情報伝達をしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	1	0	0	・SNSで情報を発信してもらっています。	今後もホームページ・SNSなどで定期的に発信をしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	2		今後も徹底して個人情報の保護に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	0	0	0		大切なお子様を安心安全にみらいで過ごすために、すべてのマニュアルを作成し、お手紙やSNSで発信しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	1	0	1		様々な災害に対して定期的な訓練を実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	0	0	0		今後も、契約時に丁寧な説明をしていきたいと思います。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	0	0	2		今後も、契約時に丁寧な説明をしていきたいと思います。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0		今後も安心感を持って通所できるように努めたいと思います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	0	0	0	・毎週楽しみに通っています。先生方と遊ぶことをとても楽しみにしています。	今後も、通所を楽しみにしていただける支援をしていけるように努めたいと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	13	1	0	0	・大変満足しています。	今後も満足いただけるように努めていきたいと思います。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ABA発達支援教室　みらいKids&Sports（児童発達支援）			公表日		2025年　2月　　3日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	安全面を考慮して、子どもたちの活動スペースの十分な確保を行っている。	子どもたちが活動しやすいように、十分なスペースの確保をしていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	職員の人数の配置が適切になるようにしている。子ども1人に対して、職員2人配置している等。 必要に応じて、応援体制を取っている。	今後も職員の配置が適切になるようにしていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	段差や危険な箇所がないか確認をしている。段差があるところに、足跡マークをつけて、注意喚起を行っている。	段差や危険な箇所には、視覚的支援を行い、注意喚起を行っていく。また、段差や危険な箇所の確認を日々行う。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	活動終了後に、毎日清掃をしている。子どもたちが活動しやすいように、十分なスペースを確保している。	今後も清掃を行い、清潔する。 子どもたちの活動スペースを十分に作る。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別療育を行う時は、パーテーションで仕切りをしたり、療育を行う場所を決めたりしている。	今後も子どもたちが活動に集中しやすい環境設定をしていく。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	週1回ミーティングの時間を作って、話し合いを行っている。	話し合う時間が足りず必要な時は、随時相談をして、話し合う時間を確保する。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	毎年保護者からアンケートを取り、業務改善に繋げている。	今後も保護者からのアンケートを継続していき、保護者からの意見を受容し、改善に努める。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	ミーティングや1on1などを設けており、話し合いができています。	職員の意見を聞き、反映していき、業務改善に繋げていく。職員全員が意見を言いやすい環境を作る。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	ABAのコンサルタントを年に2、3回ほど行い、助言を受けて、業務改善をしている。	今後も定期的にABAのコンサルタントを受けて、日々業務改善をしていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	月1回内部研修を行っている。 年に2回ほど、外部研修を行っている。	今後も月1回の内部研修を行い、日々の業務に繋げていく。また、外部研修も継続していく。		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	月ごとに活動のプログラム作成をして、保護者に配布している。	今後も活動内容を保護者にお知らせしていく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	モニタリングや面談でしている。	今後も適切なアセスメントを行い、支援計画に反映させる。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	支援計画案を出し、担当者に内容の確認してもらっている。担当者の意見を踏まえた上で、支援計画を作成している。	今後も担当者の意見を反映させて、個別支援計画を作成する。支援計画の内容を話し合う時間を設ける。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	最新の支援計画内容を確認しやすい位置に置き、計画に沿った内容で日々進めている。	支援計画の内容を担当者に周知徹底をして、計画に沿える内容で作成していく。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	活動記録を日々取っている。	今後も日々活動記録を取っていく。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	「本人支援」「家族支援」「移行支援」等に分けて、支援計画を作成している。	「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携支援」のねらいについて、勉強会を行い。周知徹底していく。		

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	ミーティングで、どのようなことをするか話し合いをしている。 月ごとのプログラムをカレンダーに記載している。	定期的に活動プログラムの話し合いをする時間を設ける。活動プログラムを保護者にお知らせするのを継続して行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	子どもたちが課題克服していることは終了し、次のプログラムを立てている。固定化しないように、その都度見直しを行っている。	子どもたちの様子を見ながら、プログラムが固定化しないように工夫をしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	グループは、個別療育の時間と集団活動の時間がある。 個別活動と集団活動を両方、支援計画を作成している。	子どもたちの利用状況に合わせて、個別活動と集団活動の内容を組み合わせ、支援計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	担当者同士で声を掛け合いながら、話し合う時間は作っている。	支援内容について話し合う時間がない時は、その都度相談をしてもらい、話し合う時間を作るようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	活動終了後に振り返りをする時間を設けている。	振り返りをする時間を作り、どの職員も意見が言いやすい環境にしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	日々活動記録を取っている。 過去の活動記録を見ながら、どのように支援をしていくか各自考えている。	日々の記録を取ることを徹底し、過去の活動記録を見ながら、支援検証しやすい記録の仕方を周知徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	半年に1回モニタリングを行っている。	半年に1回のモニタリングは今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	子どもたちのことをよく理解している支援者に面談に入ってもらっている。	子どもたちの日々を理解している支援者が面談に参加してもらうことを継続していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	保育所等訪問を行っている。 相談支援事業所の方や幼稚園の先生が、子どもたちの療育の見学に来られることがある。	関係機関との連携をさらに深めていけるようにする。関係機関から面談や見学の希望があれば、受け入れる。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	保育所等訪問を行っている。 幼稚園の先生が子どもたちの療育の見学に来られて、情報共有をすることがある。	移行に向けた支援を行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	保護者の希望があれば、学校等の情報共有は行う。	保護者の希望があれば、今後も学校との情報共有を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5	2	児童発達支援センターと子どもたちの普段の様子や支援計画の共有を行っている。	引き続き児童発達支援センターとの連携を取っていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	現在は行っていないが、今後検討していく。	機会があれば、検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	保護者のお迎えの時に、本日の活動の様子を口頭で伝えている。また、必要に応じて臨時面談を受け付けている。連絡帳に目を通して、記載をしている。	日々子どもたちの様子を口頭での説明、連絡帳、面談等を通して伝えていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	ペアレントトレーニングや子育てを行う上で役立つ講座を行っている。	今後もペアレントトレーニング等を継続していき、保護者にもお知らせをする。

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に説明を行っている。	今後も契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等について説明を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	面談で保護者から聞き取った内容に基づいて支援計画を作成している。	今後も保護者の思い、子どもたちのことを尊重して、支援計画を作成していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	支援計画の説明を保護者に必ず行い、同意を得ている。また、支援計画の内容の変更希望があれば保護者に記載してもらい、修正して再度説明することがある。	今後も保護者に支援計画の説明を行い、必要に応じて、計画内容を変更していく。支援計画の内容の同意を得ることを徹底していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1	5	保護者から相談希望があれば、面談を提案し、必要な助言を行っている。	保護者から相談の希望があれば、随時面談を行う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	保護者会を検討している。	機会があれば、検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	相談の申し入れがあれば、すぐに対応し、面談日を調節している。また、可能な限り当日の臨時面談も行っている。	今後も相談の申し入れがあれば、迅速に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	インスタグラムやかわら版等で、日々の活動の様子を発信している。	今後も定期的に日々の活動の様子をお知らせしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	写真を掲載する際は、保護者の許可を取り、顔と名前をわからないようにしている。	今後も個人情報保護を徹底していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	絵カード等を用いて、視覚支援を取り入れている。活動内容をホワイトボードに書いて、順序立てて説明している。	視覚支援を取り入れ、子どもたちが何をするか理解して見通しを持てるようにしていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	現在は行っていないが、今後検討していく。	機会があれば、検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアルがある。災害の避難訓練や防犯等の研修を行っている。保護者に地震等が起こった時の対応法を説明している。	マニュアルを取り出しやすい位置に置いて、すぐに見られるようにしておく。年に2回ほど避難訓練を行う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	防災袋を用意している。地震・水害・火災等の避難訓練を行っている。	防災袋がどこにあるか、職員に周知徹底しておく。継続して避難訓練を行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	事前に、確認を行っている。また、てんかんが起こった場合の対応法、かかりつけの病院も確認している。	事前に、服薬や持病がないか必ず確認を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	アレルギー確認を必ず行っている。	今後も継続してアレルギー確認を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	災害についての研修や救命の講習がある。	今後も災害についての研修や救命講習を行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	災害が起こった時の対応法を保護者に伝えている。	避難訓練を行っていることを伝えたり、災害が起こった時の対応法は保護者に周知しておく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットを閲覧して、再発防止について話し合いをしている。	何かあれば、すぐにヒヤリハットに記載し、共有と再発防止を職員間で徹底していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	市役所の職員による虐待防止の研修を行っている。	今後も虐待防止研修を継続して行う。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	現在、身体拘束が必要な状況にない。	今後は必要に応じて、身体拘束について説明することを検討していく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ABA発達支援教室みらいkids&Sports(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 ～ 2024年 12月 27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日 ～ 2024年 12月 27日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動機材を数多く用意している。	・トランポリンやスラックライン等、使用前は子どもと約束を確認し怪我防止に努めている。 ・苦手意識を感じないよう、個人に合わせて道具を選ぶようにしている。 ・様々な運動を経験できるよう、道具を増やしている。	・ミーティングの時間を活用し、運動機材使用時のリスクの洗い出しを行っていく。 ・壊れているものが無いか、定期的に点検を行う。 ・決められたスペースの中で多くの事を経験できるよう、支援者同士でアイディアや工夫を出しあう。
2	・DCD（発達性協調運動障害）に特化した機材がある。	・12月からトレッキングが導入された。トレッキングを使って運動が苦手な子どもたちも楽しみながら参加出来るようになっていく。 ・偏ったプログラムにならないように声掛けをしている。	・トレッキングではスコアが出るので、得点が高くなることを目指しながら、子どもたちのモチベーションを保てるよう工夫する。 ・各ゲームの種類ごとに記録を残すようにする。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所が手狭である。	・集団になると、子どもが4人、支援者3人いることに加え、トレッキングやトランポリン等の大型機材もあるので空間が狭くなっている。	・物を端に寄せる時に工夫し、事故を防ぐように心がける。 ・必要な物、不要な物を分け、整理整頓を徹底する。 ・決められたスペースでも多くの運動を経験出来るように支援者の知識や経験を増やす。
2	・感染症対策として換気がしづらい。	・窓が少ない。	・空気清浄機を活用し、利用者がいない時はドアを開けるようにする。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ABA発達支援教室みらいkids & Sports(放課後等デイサービス)

公表日 2025年 2月 3日

利用児童数 2024年11月5日 現在 18人

回収数 15

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	2	0	1	・もう少し広げればと思う面もありますが、限られた空間の中で工夫してやって頂いていると思います。	使用しない器具はできるだけ収納し、活動スペースを少しでも広くできるように、工夫を重ねていきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	0	0	0	・とても手厚いと思います。	今後も、様々な専門分野の職員を、指定基準以上配置していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	0	0	1		今後必要に応じて、可能な範囲で対応していきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	0	1		換気後の温度管理に気を付けて、心地よく過ごせる環境にしています。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	0	0	0		今後も保護者様との連携をはかり、個々に応じた支援をしていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	0	0	0		年間計画、月間計画に基づいたプログラムを提供します。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	0	0	0		今後もアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された個別支援計画を作成します。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	0	0	1		今後も支援項目を明記し、具体的でわかりやすい内容を心がけていきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	0	0	0		スタッフ間で個別支援計画を共有し、個別支援計画に沿った支援をしています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1	0	0		同じ目標でも様々なアプローチができるように、職員間で意見を出し合い、多角的に支援できるようにしていきます。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	0	6	6		今後、機会があれば検討していきます。
保 護 者 へ の	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	0	0	0		今後も利用開始時に、丁寧な説明を心がけていきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	0	0	0		今後も、分かりやすく丁寧な説明を心がけていきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	1	0	0		保護者向けのプログラムを今後も実施していきます。手紙やSNSで随時お伝えしていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15	0	0	0	・帰りの際にいつもお話をして下さいます。 ・職員によって子どもの状況、支援についての理解の深さが大きく違い、不安を感じています。	保護者様とのコミュニケーションを密に取り、職員全員で、情報共有できるようにしていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	0	0	0		今後も定期的な面談と、必要に応じた子育てサポートを実施していきたいと思っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	0	0	0		今後も利用者様に寄り添った支援をしていきます。

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	1	3	7	・他の保護者同士で交流できる機会があれば嬉しいです。	今後、機会があれば検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	0	0	0	・竹うまなど苦手と言ったとき、用意をしておきました。	みらいカフェを併設し、相談しやすい環境を整えています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	0	0	0		連絡帳やSNSなど、個々に合った情報伝達をしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	0	0	0		今後もホームページ・SNSなどで定期的に発信をしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	0		今後も徹底して個人情報の保護に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	0	0	0		大切なお子様を安心安全にみらいで過ごすために、すべてのマニュアルを作成し、お手紙やSNSで発信しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	0	0	1		様々な災害に対して定期的な訓練を実施しています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	0	0	1		今後も、契約時に丁寧な説明をしていきたいと思っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	0	0	0		今後も、契約時に丁寧な説明をしていきたいと思っています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	0	0	0		今後も安心感を持って通所できるように努めたいと思います。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	0	0	0	・いつもとてもたのしみにしています。	今後も、通所を楽しみにしていただける支援をしていけるように努めたいと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	0	0	0		今後も満足いただけるように努めていきたいと思っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ABA発達支援教室みらいkids&Sports(放課後等デイサービス)			2025年 2月 3日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	療育の場と遊ぶ場を分けていてメリハリをつけている。	子どもたちの運動スペースが狭いと感じたら、机の配置を変えて広いスペースの確保をしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7	0	子どもと同じ人数、もしくは、多めの職員配置をしている。 必要に応じて応援体制を取っている。	子ども1人に対して2人の職員を配置し、また、子ども5人に対して4人の職員を配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	視覚で子どもも大人も分かるようになっている。 シンプルで子どもにわかりやすい構造になっている。	誰が見てもわかりやすい構造作りを継続していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	全てをマットに変えたことで、途中で靴を履く必要がなくなり、子どもの遊びのスペースが広がった。 毎日必ず掃除を行い、清潔が保たれている。 掃除担当を決めて、清潔な空間になるようにしている。	今後も清潔な空間を保つため、活動終了後は必ず清掃する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	子どもの様子に合わせて、遊ぶところ、逃げるところ、クールダウンできるところが確保されている。 感染の疑いがある時は、個別で利用できる部屋がある。	今後も子どもたちが落ち着きて活動できる場所を必ず作る。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	全体としてもチームとしてもミーティングの時間があり、全職員が参画している。 広く職員が参画できるように毎週ミーティングが実施されている。 振り返りを行っている。	今後もチームごと及び職員全体のミーティングの時間を設けていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	アンケート配布を行い、集計して、話し合いをして業務改善に繋げている。 職員一同で情報共有をし、改善点については話合っている。	毎年アンケート配布を行い、保護者の意見に基づいて、業務改善をしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	全体ミーティングや1on1ミーティングなどで意見を伝えることが多く設定されており、その際に出た意見を改善されている。 風通しがよい環境であり、業務改善に繋げている。	意見が言いやすい環境をつくり、意見を反映させて、業務改善に努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	ABAの先生からのコンサルタントを受けて、データをどのように取るのか等改善している。	定期的にABAのコンサルタントを継続していき、業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	内部研修、及び、外部研修を受けることが多く設定されていて、全員で共有することもしている。 月1回様々な研修を開催し、受講している。	内部研修だけでなく、市役所等による外部研修も行うことを継続して、研修で学んだことを日々の業務に活かしていけるようにする。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2	ホームページやSNSにて、子どもたちにどのような支援をしているかを公表している。 支援プログラムを作成し、保護者にはLINE、ホームページで公表している。	今後も支援プログラムの作成を継続し、保護者にお知らせをする。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	子ども、及び、保護者のニーズや課題を把握して支援計画を作成している。 ABAを基に分析し、支援計画を作成している。 担当職員がアセスメントを行い、保護者と面談し、ニーズや課題を考えて支援計画を作成している。	保護者との面談内容に基づいて、支援計画を作成する。 また、担当職員と子どもたちの課題について話し合う。

適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	モニタリングを行い、課題などを共有している。 ミーティングにより、子どもの最善の利益を考慮できている。 支援計画に関わった職員が確認し、話し合っている。	支援計画会議を定期的に行い、保護者との面談の内容を職員間で情報共有をして、支援計画の作成を進めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	職員全員が共有している子ども一人一人にあった支援を行っている。 日々計画に沿った支援が行えているか支援計画書をすぐに見られる位置に置いて工夫している。	支援計画の内容を職員間の情報共有を徹底し、子どもたちの支援を行う。 支援計画をすぐに確認しやすい位置において置き、内容を把握して支援を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	今年度から標準化されたエイブルスを使用しやすくした。 子どもの日々のデータや活動記録を確認している。	過去の活動記録やデータを確認しながら、日々の支援を行う。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	面談などを行いながら、子どもに合った具体的な支援内容を設定している。 5領域も含まれた具体的な支援内容が設定されている。	支援計画、日々の活動記録やデータを確認し、有効活用して支援を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	チームでミーティングをしながら、活動プログラムを決めている。 チームでミーティングの時間を設定し、コミュニケーションを図りながら決定している。	個別療育でチームで協力しながら療育の準備もする。 ミーティングの時間を設定することを今後も継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	簡単に誰でもできる内容を考えている。 毎月ミーティングを行い、内容は細かく変えるようにしている。 バランスにも配慮して偏らないように工夫している。 年間計画、及び、月間計画を話し合って決め報告している。	プログラムが固定しないように、ミーティングする時間を設けて、微調整できるようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	子どもごとに個別か集団を決めて計画し支援している。 個別と集団を適宜組み合わせる常により子どもの最善を検討されている。	今後も支援の内容や役割分担をチームで確認する時間を作る。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	どのような療育をするのか、活動をするのかを話し合ってから支援をしている。 チームワークがよく連携しているので、ミスが少ない。 打ち合わせの時間が取れるようにシフト調節してもらったり、報告しあったりして連携を取れるようにしている。	療育や活動のことで話し合いをしたい時は、シフトの担当者に相談するように呼びかける。 話し合いの希望があれば、時間を設定する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	ミーティングやその日に合ったことを話せている。 子どもたちがどのような反応をしたかを振り返り次に繋げている。 常に話し合い、情報共有の徹底がされている。	今後も活動終了後に振り返りする時間を設定する。 気づいたことを話しやすい環境作りをする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	データや記録を書き、良くなるように繋げている。 記録を個々に取り、改善に繋げている。	ABA分析の欄に問題行動を記載して、確認して支援できるようにする。 日々の記録を確認して、支援できるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	モニタリングを行い、子どもに合う計画を見直している。 モニタリング用紙を配布、回収の徹底により、適切な見直しを行っている。	担当職員の記載されたモニタリングを基に支援計画を作成する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	0	来所してから帰るまで4つのうち2つは出来るようにしている。	4つの活動基本に基づいて、子どもたちが2つ以上出来るような組み合わせをしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	子どもたちがしたいことや欲しいことを選んでもらい、伝えられるようにしている。 子どもたちの意見を早朝氏、自己決定をする力を育てる支援を行えている。 何でも手伝わず、どうしたらいい？と子どもたちに尋ねて、自分で決められるようにしている。 自己決定、自主性を重んじている。	子どもたちが自分のやりたいことが伝えられやすいように、選択肢を用意する等工夫していく。

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	子どものことを理解している職員が参画している。（保育所等訪問や相談支援機関との会議等）	保育所の先生から質問を受けた場合は、事業所に報告するようにして、職員間で情報共有をする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	小学校や保育園、幼稚園と連携を取れるようにしている。	今後も各関係機関と連携を取りながら、支援をしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	送迎する時の場所等、連絡を行っている。保育所等訪問支援のみでなく、連絡調整をしっかりと情報共有できている。送迎の時に担任の先生に情報共有している。事業所の校区内の学校とは何かあればメールで連絡が来るようになっている。	学校との連絡調節を行い、職員間で情報共有を徹底する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	就学前の様子等、共有できるようにしている。児童発達支援も事業展開しており、常に情報共有と相互理解に努めている。保護者や園、学校、他事業所より依頼を受けた時に対応できる体制を整えている。	今後も園や他事業所等、就学前の子どもの様子を情報共有できるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	どのような活動をしていたのか等の記録を提供することがある。依頼があれば、書面で情報提供している。	今後も他事業所との情報共有をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	連携を取り、研修なども受けられている。	外部研修は今後も継続していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	来所している友だちとまずは関われるようにしている。	現在は行っていないが、今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	児発管のスタッフが参加している。	今後も協議会の案内があれば、積極的に参加するようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	保護者に子どもたちの状況や今日の出来事をお迎えの時に伝えをして、共通理解を持っている。	今後も子どもたちの状況を保護者にお伝えし、いき、共通理解を持てるようにする。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	定期的に、ペアレントトレーニングを行っており、家族支援も充実している。	今後もペアレントトレーニングを継続し、保護者に案内をしていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	初回、契約時に担当者が説明している。	契約時に説明を丁寧に行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者の意見を聞き、意向を確認している。面談や日々の保護者とのやりとりの中で意向を確認する機会がある。	面談等を通して、保護者の意向をこまめに確認していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	児発管が支援計画の内容を説明し、保護者から同意を得ている。	支援計画の内容を丁寧に説明し、保護者の同意を得るようにする。
	り	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	臨時面談等を通して、家族の悩みを聞き、助言や支援を行っている。	助言が難しい時は、上司や代表に相談しながら進めていく。臨時面談を行うことを保護者に適宜提案していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5	2	ペアレントトレーニングの中で保護者同士が関われるように設定されている。	保護者会は今後検討していく。ペアレントトレーニングや講座等、保護者同士が交流できるようにしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情があった時対応できることに關しては迅速に対応している。	今後も苦情があれば、速やかかつ適切に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	かわら版、ホームページ、SNSで活動や行事を発信している。	今後もSNS等を駆使して、日々の活動や行事を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	書類は鍵をかける棚に入れる等、留意している。	個人情報の取り扱いには、十分に留意していくようにする。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	視覚や指差しなどで、伝えられるように配慮している。	視覚支援を用いて、子どもたちの意思が伝えられやすいように工夫していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	事業所内だけで行事等楽しめるようにしている。	地域の行事への参加を今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	定期的に災害に関する訓練を行い、もしもの時に備えている。（防災袋等）月に1回研修を行っている。	マニュアルがどこにあるかを把握し、取り出しやすい位置に置いておく。 定期的に災害に関する訓練、研修を継続していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	避難場所を確認し、訓練を行っている。 外部講師を招いてAED、救命講習を行っている。 集団活動で非常災害時の時は、どうしたらよいか子どもたちに伝えている。	地震・水害・火災等、年に2～3回ほど災害に関する訓練・研修は継続して行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	保護者からも持病への対応法やかかりつけの病院等、事前に聞き、確認している。	子どもたちの持病の有無や対応法等、保護者に事前に確認してを徹底していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	事前にアレルギーの有無を確認し、職員間で共有している。	アレルギーの有無の確認と職員間での情報共有は徹底していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	大きい道具を使う時は安全を確認してから行っている。 危険なところがないかを確認し、改善している。	日頃から安全面を考慮していく。危険を感じた時は、状況報告をし、速やかに改善できるようにしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	どのような活動をしているのか、共有できるようにしている。	安全に活動できるように、保護者に周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット報告書の回覧、共有により再発防止を検討できている。 全体会議の中で全職員と共有している。	ヒヤリハット報告が上がったら、その都度職員間で情報共有し、再発防止を徹底していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	研修を必ず行い、虐待防止できるようにしている。 市役所の方を招いて、虐待防止をテーマに研修を行い、聞いたことを取り組んでいる。	今後も外部研修を継続し、虐待防止の学びを深めていき、日々の業務に生かしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	なるべく身体拘束はせず、子どもと関わるようにしている。 対象の子どもはいないが、マニュアルは策定している。	虐待防止の研修で学んだことを生かして、子どもたちを支援していく。